

令和3年度
第1回動物由来感染症検討会 会議録

議題1（令和2年度動物由来感染症調査実施結果）について （1）第一種動物取扱業における動物由来感染症調査結果 資料1-1「令和2年度第一種動物取扱業（種別「販売」における動物由来感染症調査結果」 資料1-2「令和2年度第一種動物取扱業（種別「展示」における動物由来感染症調査結果」		
御意見		事務局回答
今岡 浩一	資料1-1) 表2の脚注で良いので、施設EGHの管理動物の「その他」の内容について、簡単に記載がほしい（例えば、「*小鳥、カメなど」とか）。 R2-2の時にもお願いしたが、従業員数の記載がほしい。 資料1-2) 特になし	資料1-1 いただいたご意見を基に資料を一部修正いたしました。
佐藤 克	販売施設について 動物が市場から仕入れている場合に、病原体が多く検出されている傾向があるのではないのでしょうか。今後市場の調査が望まれます。陽性個体の対応について、治療はどのように行われたのか把握していますか？指導を行っていますか？治療結果については調査されましたか？ 展示施設について 病原体が検出された場合、管理者の調査を行うべきではないのでしょうか？今回はどうだったのでしょうか？隔離ができない場合に他の個体にも投薬を行うことについては納得します。	販売施設について 陽性個体について、検査結果報告時に治療を推奨し、その後の治療内容について聴取しています。治療後の追加検査の希望はありませんでした。 展示施設について 管理者に体調不良者がいなかったため、管理者の調査は実施しませんでした。令和2年度第2回東京都動物由来感染症検討会におけるご指摘とともに、今後の検討課題とさせていただきます。
中村 ふくみ	特になし	
源 真希	特になし	

(2) 動物病院における動物由来感染症モニタリング事業結果 資料2「令和2年度動物病院における動物由来感染症モニタリング事業結果」		
	御意見	事務局回答
今岡 浩一	<p>動物病院で、症状等の指標を元に選択したのでもない6頭の犬・猫からSFTSウイルスの遺伝子検出を行うことには余り意義を見いだせません。R2年度に動物愛護センターで計23頭の調査を行っています。R3年度にそれを継続するかどうかわからないのですが、そちらでも十分ではないでしょうか。</p> <p>(回答に対する追記) 動愛センターで実施しないのであれば、頭数を増やすべきではないでしょうか。6頭ではモニタリングとは言えません。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対応のため、R3年度は動物愛護相談センターでのSFTSウイルス検査を実施しません。そのため、今年度は引き続き動物病院でのモニタリングを継続いたします。</p> <p>(追記について) 頭数の増加について、検討させていただきます。</p>
佐藤 克	<p>薬剤耐性菌が多いことに驚きました。小動物臨床では抗生物質の使用頻度が高いです。発熱個体に対しても治療の際には念のために抗生物質を使用したりしています。こうした行為が耐性菌を増やすことにつながっているのだろうと感じます。抗生物質の適正使用についても啓発したいと思います。</p>	<p>ご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>今後も薬剤耐性菌を含め、動物由来感染症の発生状況を把握するために、本モニタリング事業を継続してまいります。</p>
中村 ふくみ	特になし	
源 真希	特になし	

（3）動物愛護相談センター動物由来感染症調査結果		
資料3「令和2年度動物愛護相談センター動物由来感染症調査結果」		
御意見	事務局回答	
今岡 浩一	特になし	
佐藤 克	3（4）アンケート調査について よろしければ結果を教えてください。	本アンケートについて、サンプル数が十分に確保できていないため、現時点での公表は差し控えさせていただきます。 今後、動物愛護相談センターでの新型コロナウイルス感染症への対応が終了し、通常体制に戻った後にサンプル数不足の補完を検討をいたします。
中村 ふくみ	特になし	
源 真希	特になし	

(4) 狂犬病調査結果

資料4 「令和2年度狂犬病調査結果」

	御意見	事務局回答
<p>今岡 浩一</p>	<p>C群の犬3頭についてIFが「NT」である事に関して、「動物愛護相談センターから健康安全研究センターへの、現在の検体の搬送体制では、検体の保存期間の関係上、蛍光抗体法の実施が困難」との回答をいただきました。野生動物のタヌキで可能なことがなぜ、23区内間の輸送が困難なのかよくわかりません。本事業は訓練的な意味合いも強く、実際に、その事例が出た際に困るので、改善が必要ではないでしょうか。</p> <p>(回答に対する追記)</p> <p>動物愛護相談センターに-80℃の冷凍庫がないとのこと、これは、せめて1台(サイズとしては犬がそのまま入るくらい。横型)設置しておく必要があるのではないのでしょうか。</p>	<p>タヌキでの検査では健康安全研究センターで検体を採取し検査を実施しています。対して犬は動物愛護相談センターで死亡した個体から検体を採取、保存し、後日健康安全研究センターへ輸送していません。動物愛護相談センターには-80℃で保存可能な冷凍庫がないため、蛍光抗体法を実施することは困難です。</p> <p>また、タヌキでは蛍光抗体法も訓練として実施しております。</p> <p>(追記について)</p> <p>-80℃の冷凍庫の設置について、検討させていただきます。</p>
<p>佐藤 克</p>	<p>前にも申し上げましたが、調査というにはあまりに検査個体数が少ないです。</p>	<p>今後の検討課題とさせていただきます。</p>
<p>中村 ふくみ</p>	<p>特になし</p>	
<p>源 真希</p>	<p>特になし</p>	

令和3年度
第1回動物由来感染症検討会 会議録

2 議題2（令和3年度動物由来感染症調査計画）について

（1）動物取扱業における動物由来感染症調査計画

資料5「令和3年度動物取扱業における動物由来感染症調査計画」

御意見		事務局回答
今岡 浩一	特になし	
佐藤 克	特になし	
中村 ふくみ	特になし	
源 真希	特になし	

令和3年度
第1回動物由来感染症検討会 会議録

(2) 動物病院における動物由来感染症モニタリング事業計画		
資料6 「令和3年度動物病院における動物由来感染症モニタリング事業計画」		
	御意見	事務局回答
今岡 浩一	<p>前回の問合せに対し、SFTSについて「検査体制作り」との回答を得ましたが、それにしても6頭では意味をなさないとされます。目的として、検体採取における同意書の取得や採材、輸送方法などの訓練と言うことであれば、地域を決めて順番に実施するなど、目的をはっきりさせる必要があると思います。それにしても、頭数を増やすか、検査対象の症状を絞るかして、調査する方が良いと思います。</p> <p>また、長野、静岡や千葉など、東京近県でも報告が出初めているので、イヌ・ネコのSFTS疫学調査として、そろそろ協力病院を募って抗体検査を行っても良いのではないのでしょうか。</p> <p>その他の項目については、従来通りで良いと思います。</p>	<p>協力動物病院からの意見を参考に、昨年度から検体の輸送方法を一部見直し、手法の確立を図っています。その上で、今後の検査頭数の拡充や検査対象の限定については、検討課題とさせていただきます。</p>
佐藤 克	<p>SFTSについて来院する動物に付着しているダニの調査（動物数とダニの数など）、付着していたダニのウイルス保有状況の把握はいかがでしょうか。</p>	<p>今後の検討課題とさせていただきます。</p>
中村 ふくみ	特になし	
源 真希	特になし	

令和3年度
第1回動物由来感染症検討会 会議録

(3) 狂犬病調査 資料7「令和3年度狂犬病調査計画」		
御意見		事務局回答
今岡 浩一	資料7の犬等の調査方法によると、遺伝子検査またはIFになっています。先にも述べたように実地訓練的な意味合いがあるので、両方ともに実施する事を考えた方が良いと思います。	1(4)の回答の通り、タヌキでの検査にて遺伝子検査と蛍光抗体法の訓練に代えさせていただきます。
佐藤 克	モニタリングと言えるくらい個体数を増やしてほしいです。特に野生動物の検体増加をお願いしたいです。例えば大学との連携はどうでしょうか？死亡数の把握も大切だと思います。その都度検査できなくても検体を保管するシステムを構築してはいかがでしょうか。	今後の検討課題とさせていただきます。
中村 ふくみ	特になし	
源 真希	特になし	

令和3年度
第1回動物由来感染症検討会 会議録

3 その他

(令和3年度第2回東京都動物由来感染症検討会の開催時期、開催方法、その他、資料等について)

御意見		事務局回答
今岡 浩一	R3-2についても、今回と同様が良いと思います。 メール添付で十分ですので、紙資料については郵送不要です。	
佐藤 克	COVID-19の様子にもよりますが、オンライン会議開催が望ましいと思います。	
中村 ふくみ	特になし	
源 真希	特になし	